

ユネスコ

2022.4
vol. 1174



ウクライナとルーマニアの国境付近の避難所。ウクライナは多数の外国人労働者が世界中から流入している国。ロシア軍のウクライナ侵攻はウクライナ人だけでなくさまざまな国籍の人びとも抑圧している。写真にうつっているのはウクライナ在住の南アジア系の人びと。 写真提供：シグナス科学ユネスコ協会（ルーマニア）

CONTENTS

- 1 ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金
- 3 災害子ども教育支援
- 5 東日本大震災子ども支援
 - ユネスコ協会就学支援奨学金
 - MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金
- 7 ユネスコ活動の広場
 - 各地ユネスコ協会の活動
 - 新規加入維持会員のご紹介
- 9 TOPICS
 - ミャンマー 軍事クーデターから1年
- 10 活動報告
 - 世界寺子屋運動
 - ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト
 - アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム
 - 寺子屋リーフレット制作プロジェクト
 - 未来遺産運動
- 15 お知らせ・募集
 - 理事会・評議員会報告

「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」にご協力を!

2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻に伴い、3月18日現在で300万人以上の避難民が周辺諸国に流入しています。

日本ユネスコ協会連盟では、ウクライナの南西に位置する隣国ルーマニアで活動するルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟（以下、ルーマニアユネスコ連盟）と連続的に協議を行い、同連盟を通じたウクライナからの避難民への支援を開始しました。

現在、同連盟の傘下協会である、ルーマニア北部のウクライナ国境にほど近いスチャバ市で活躍するシグナス科学ユネスコ協会が、同市に押し寄せるウクライナからの避難民に対し、必要に応じた物資支援にあたっています。さらに、シグナス科学ユネスコ協会とつながりのあったウクライナのチェルノフツィユネスコ文化センターを通じて、ウクライナ国内での支援も始めています。

これに伴い、3月4日に「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」を立ち上げましたので、皆さまのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。詳細は本誌p1～2をご覧ください。



▲ウクライナとルーマニアの国境付近に押し寄せる人びと

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金 ご協力をお願い

ロシア軍によるウクライナ侵攻に伴い、これまでに300万人以上のウクライナの人びとが周辺諸国に流入し、難民状態にあります(3月18日現在)。

日本ユネスコ協会連盟では、ウクライナの隣国ルーマニアのルーマニアユネスコ協会センタークラブ連盟と共同で、ウクライナ避難民支援を開始しました。皆さまからの温かい募金のご協力をお願いいたします。

- ・支援内容：ウクライナ避難民への宿泊・食糧・生活物資支援
- ・対象地域：ウクライナ国境沿いエリアおよび避難民流入国(隣接国ルーマニアなど)
- ・募金受付期間：2022年5月31日まで ※状況により期間を延長する場合があります。
※日本ユネスコ協会連盟への募金は、寄付金控除などの対象となります。
領収書が必要な方は、下記までご連絡ください。

▼郵便局からの募金(郵便振替)

00190-4-84705 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
※通信欄に「ウクライナ」とご記入ください。 ※振込手数料免除。

▼銀行振込での募金

みずほ銀行 恵比寿支店 普通1128426 シャ)ニホンユネスコキョウカイレンメイ

▼クレジットカードでの 募金はこちら



問い合わせ先

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
ウクライナ緊急募金担当
TEL 03-5424-1121
ukraine@unesco.or.jp
特設ページはこちら⇒



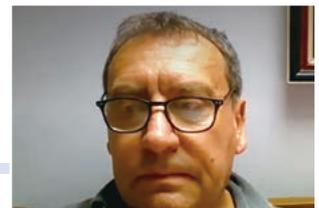
(写真提供:シグナス科学ユネスコ協会)

支援速報 (3月8日現在) from ルーマニア スチャバ市

ウクライナ国境にほど近いルーマニア北部のスチャバ市で活動するシグナス科学ユネスコ協会を通じて、ルーマニアの同市に避難しているウクライナの人びとへの物資支援を行っています。

1時間あたり200人もの避難民がウクライナから…

シグナス科学ユネスコ協会 ダン・ミリチ会長



「スチャバ市内では、ホテル、学校やスポーツセンター、文化センターなどに人びとが詰めかけているため、食べものや着るもの、寝具など、さまざまな物資が必要です。1時間あたり200人もの避難民がウクライナから押し寄せてくるなか、日本

の皆さんからの支援は非常にありがたいです。ここスチャバでは夜の気温は零下にまで下がるので、限られた身の回りのものしか持たない人たちに、必要なものを提供していきます」

ウクライナの危機に関する声明

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなくてはならない」というUNESCOの精神を、日本に世界に弘めるために創設された私たち公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、この度のウクライナ危機に重大な懸念を持ち、UNESCO本部の声明を強く支持します。

UNESCOの精神に立ち戻り、ロシア政府は、直ちに力による問題解決を中止することを求めます。また世界の人びとは、ウクライナの平和のための声を挙げましょう。

2022年2月27日

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟



ウクライナの最近の情勢に関するUNESCOの声明(仮訳)

2022年2月24日

UNESCOは、ウクライナで進行中の軍事行動と暴力のエスカレーションを深く憂慮している。国連事務総長が述べたように、こうした作戦はウクライナの領土保全と主権の侵害であり、国際連合憲章と相反している。

UNESCOは、国際人道法、特に「武力紛争の際における文化財の保護に関するハーグ条約」(1954年)とその2つの(1954年と1999年の)議定書を尊重し、あらゆる形態の文化遺産に対する損害の防

止を確たるものとするよう呼びかける。

民主的な社会に必要な不可欠の基礎であり、また市民の保護に貢献する、自由で独立した、また偏らないメディアを促すための、「紛争状況におけるジャーナリスト、メディア専門家及び関連職員の保護に関する国連安全保障理事会決議2222号(2015)」に基づく義務も、この呼びかけに含まれる。

UNESCOはまた、子どもや教師、教育関係者、学校に対する攻撃や危害を自制し、教育を受ける権利が守られるように求める。

支援速報 (3月8日現在) from ウクライナ チェルノフツィ市

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金にご協力いただき、誠にありがとうございます。これにより3月8日夜、現地から支援物資を配布できたと連絡が届きました。連絡をくれたのは、ウクライナ南部のチェルノフツィ市で避難民の人たちへの支援を始めているユーリ・レフチックさん。レフチックさんは、ルーマニア系ウクライナ人で、チェルノフツィユネスコ文化センターの代表です。

チェルノフツィ市はウクライナ南部、そのまま30キロ南下するとルーマニアとの国境にたどり着く地点にあります。もとはルー

マニア領でしたが、第2次世界大戦後、当時のソビエト連邦により強制的にウクライナ側に編入されました。

チェルノフツィユネスコ文化センターは、ルーマニアのシグナス科学ユネスコ協会と以前から交流を続けてきました。

いま、二つの組織は、国境を挟んだ避難民の脱出地点と受け入れ地点として、連携しながら避難民支援を行っています。チェルノフツィ市では銀行からの引き出し制限があるため、日ユ協連は、寄付を分割送金しながら支援を行っています。

ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金 早速物資を配布しました!

チェルノフツィユネスコ文化センター ユーリ・レフチック代表

「支援物資のための寄付を送金していただき、ありがとうございました。事態が切迫し、避難民となってチェルノフツィに来る人が増えているので大変助かります。いただいた資金で、赤ちゃん用のウェットタオル、女性用の下着、それにスリッパを買って届けることができました。

私の文化センターでは、ルーマニア系のウクライナ人が、ルーツであるルーマニアの伝統を忘れないようにと活動してきましたが、現在、避難民の人たちが泊まれるように部屋を仕立てています。

これから作業に取り掛かるので、十分にお礼をいえずすみませんが、日本の皆さまに、心から感謝しています」

▼物資を受け取った女性から「ありがとう」のメッセージも



▼支援物資の積み込み



▼早速物資を届ける



▲赤ちゃん用ウェットタオルや下着類など募金で購入した支援物資

(写真提供: チェルノフツィユネスコ文化センター)



いつか起こる災害から
子どもたちの未来を守るために。

災害子ども教育支援募金

「高校には、いかない」

東日本大震災のとき、ある中学3年生がつぶやきました。
就職して、家と仕事をうしなった親を助きたい、と。

その当時、進学をためらう子どもたちのためにと
全国から日本ユネスコ協会連盟にお送りいただいた寄付で
5000人を超える子どもたちの学びを支援することができました。

これから先、いつ起こってもおかしくない災害がやってきたときも、
いつもどおりの学校生活を、進学の道を、将来の夢を守りたい。

どんなときも学びをとめない、明るい未来につなげるための
温かい支援をお待ちしています。

災害子ども教育支援募金 ご協力をお願い

本事業は、災害発生時に迅速な支援ができるよう、平時より募金の受け付けを行い、今後の災害時の原資として備えます。

郵便局から

00190-4-84705

加入者名：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

※通信欄に「災害子ども」とご記入ください。※振込手数料免除。

クレジットカードによる募金



毎月の継続的な募金(月1・いいことプログラム)

- ・口座振替(自動引落し)
- ・クレジットカード



- その他、相続財産のご寄付や遺言による遺贈(財産・不動産のご寄付)もお受けしています。詳しくはホームページをご覧ください。



■お問合せ先：教育支援課 災害子ども係 [✉ kodomo@unesco.or.jp](mailto:kodomo@unesco.or.jp)

[ユネスコ 災害子ども](#)

いつ、どこで起こるか分からない自然災害

自然災害は、日本のどこでも、いつか起こる可能性があります。台風や豪雨、土砂災害は毎年のように発生し、各地で大きな被害をもたらしています。また、巨大地震とそれに伴う大津波は、今後30年以内に70～80%の高い確率で発生が予測されています。

過去の災害の経験を生かして

東日本大震災では、多くの学校や家庭が被災し、子どもたちが学校生活を送ることさえ困難な状況に陥りました。家庭の経済状況から、希望する高校への進学をためらう子どもたちもいました。

当時、就学のための経済的支援が必要な子どもは約3万7000人、被災した学校は約6000校、流失・損壊した家屋は約12万棟にのぼりました。災害は、それまでの当たり前暮らしを一瞬にして変えてしまいます。

近年、発生した主な激甚災害・大規模災害

2011	東日本大震災
2016	熊本地震 7月豪雨 台風・7号・11号・10号 台風16号
2017	九州北部豪雨 台風18号 台風21号
2018	7月豪雨 台風19号・20号・21号 北海道胆振東部地震 台風24号
2019	台風3号・5号など 台風10号・13号・15号・17号 台風19号(20号・21号)
2020	7月豪雨
2021	5～7月豪雨 8月豪雨

必要なときに支援を届けられるように

いまから、“そのとき”のために。

災害子ども教育支援は、これから起こる災害で子どもたちの学びが途切れないように、大きな災害が発生した際に、災害の規模に準じて、被災地の学校への物資支援や、子どもたちへの奨学金支援などを行います。

災害子ども教育支援

奨学金

返済不要の奨学金を3年間



学びを続けたい子どもたちに、進学の手を。

高校進学は子どもたちの将来を拓くための第一歩です。被災家庭の子どもたちが希望する学校に進学し、安心して学校生活を送るために返済不要の奨学金を支援します。

- 支援対象は？
以下の①または②に該当し、高校進学を希望する中学3年生。
①災害で就学のための経済的支援が必要になった生徒
②災害で親を亡くした生徒
- どんな支援？
一人あたり月額2万円の給付型奨学金（返済不要）を3年間にわたって支援。
- 対象となる災害は？
国内で発生した自然災害で、激甚災害に指定され、かつ子どもたちへの就学支援（経済的支援）が必要とされる大規模な災害。

学校支援

教育現場に必要な物資を



子どもたちに、いつもどおりの学校生活を。

学校の教育活動が継続できるよう、教育現場が必要とする物資などを柔軟に支援します。災害時には、学校ごとに必要なものが異なります。東日本大震災での経験を活かし、被災校の要望を1校1校聞いて、必要なものを、必要なときに、必要なところに届けます。

- 支援対象は？
災害で被害を受けた幼稚園、小学校、中学校、高等学校ほか、教育・子どもに関連する機関・施設。
- どんな支援？
教育現場からの要請に基づいて、国や自治体だけでは手が届かない個々の学校からの細かな支援ニーズに対応。被害レベルに応じて、1校あたり20万円から100万円相当の範囲内で必要な物資などを調達するための支援。
- 対象となる災害は？
国内で発生し、激甚災害に指定された自然災害。

ユース・ボランティア支援

被災地へ赴くユースを支援



被災地で活動する若い力を育む。

被災地の復旧・復興を支えるボランティア活動に若い力で取り組むユースを支援します。

- 支援対象は？
復旧・復興のためのボランティア活動に取り組む次代を担うユース・グループ。
- どんな支援？
被災後もない復旧・復興の場面で、力仕事などの実作業でボランティア活動に取り組む意欲のあるユース・グループに対して、被災地への旅費の一部を支援。
- 対象となる災害は？
被災地の社会福祉協議会や災害ボランティアセンターなどから復旧・復興支援ボランティアの派遣要請がなされた災害。

※対象となる災害や支援対象校/者、支援内容などの詳細は、別途ガイドラインによる規定があります。

(教育支援課)

ユネスコ協会就学支援奨学金

たくさんの支えがあって「いま」がある

2011年4月、東日本大震災から間もなく、被災して経済状況が悪化した家庭の子どもたちの学びを支えるため始まったのが標記奨学金事業です。主に高校進学を希望する中学3年生を対象に、一人当たり月2万円の給付型奨学金を3年間支援する活動を続けています(2025年度末まで)。ご協力いただいた皆さまのおかげで、これまでに被災3県3554人の子どもたちを支援することができました。

この11年間に、子どもたちは思い思いに夢を描くことができたでしょうか。岩手県で鍼灸師として働く、かつての奨学生の声をお届けします。(教育支援課)

～かつての奨学生インタビュー～ 長根 絢菜さん 23歳 (2013～2015年度の奨学生)

用務員さんの判断で救われた命

長根絢菜さんが岩手県山田町で震災に遭ったのは、小学6年生の卒業間際でした。小学校は坂の上にありましたが、目の前が海という立地。地震の後、全校生徒が校庭で待機していると、海の底が見えるくらいまでいったん引いた水が、防波堤から溢れそうになっていました。そこで、危機を感じた用務員さんの判断で、急いで裏山へ避難することになったのです。

「1年生から順番に避難したので、私たちが走って逃げたときは、もう後ろに波が来ていました。学校に集まっていた地元の人も含めると全員で160人くらい。用務員さんのとっさの判断がなかったら、皆の命は助からなかったと思います」

用務員さんのおかげで救われた命。そのことを伝え継いでいきたいと長根さんはいます。震災10年目となった昨年には、恩返しのつもりで手づくりの感謝状を渡したところ、泣いて喜んでくださったそうです。

高台にあった長根さんの家は、津波は免れたものの、その後の火事によって全焼。以来、家族9人が3棟の仮設住宅に



鍼の治療をする長根さん。
婦人科系に特化した鍼灸にも興味があるという

分かれて9年間を過ごしました。不自由な中でも、家に帰れば家族全員がいて、学校に行けば友だちに会える。多くの支えで学校生活を楽しく過ごすことができたといいます。

サッカーから鍼灸師へとつながった

長根さんは小学2年生からずっとサッカーを続けています。女子クラブチームに所属するかわら、中学に入るとサッカー部で男子に混じってプレーし、高校ではサッカー部のマネージャーとして活躍しました。中学のときの大怪我で選手になる夢は諦めましたが、サッカーやスポーツに関わり続けたいという思いは変わりません。いまはスポーツトレーナーを目指して鍼灸師となり、もうすぐ2年目の春を迎えます。いつかは鍼灸院を開業し、自分なりの治療で患者さんに寄り添いたいといいます。

「震災で家を失い、親の収入も減り、4人兄弟なので大変な時期が続きましたが、皆さんの支えで鍼灸師という夢を叶えることができました。好きなサッカーを続けてこられたのもご支援があったから。感謝してもしきれません。本当にありがとうございました」

自分も誰かの役に立ちたいと、長根さんはいまヘアドネーションのため髪を伸ばしています。



高校の卒業式で。
ヘアドネーションのため髪を伸ばして
4年目くらい

新規事業「災害子ども教育支援」が始まります

ユネスコ協会就学支援奨学金は、来年2023年3月をもって募金の受付を終了します。今後は、これから起こる災害に備えた新規事業を開始し、被災地の子どもたちの学びを支えていきます。引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループと協働で2011年4月に標記基金を設立。震災で親を亡くした小学生から高校生を対象に、月2万円の奨学金を高校卒業まで継続的に支援する給付型奨学金プログラムを続けています。今後も最終奨学生が高校を卒業する2025年度末まで支援を続けます。ほかにも、学校花壇の再生や、交流プログラム、先生方の心のケアの研修など幅広い支援を実施してきました。

高校を無事卒業した奨学生からは「夢に向けて進学することができました。進学にあたり、奨学金に支えられていたことを実感しました。」との感謝のお便りも寄せられています。

ここでは、長年、支援を継続していただいている三菱UFJフィナンシャル・グループからのメッセージをご紹介します。(教育支援課)

三菱UFJフィナンシャル・グループからのメッセージ

～教育支援に込めた思い～

MUFGおよび三菱UFJ銀行は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と協働で2011年4月に「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を創設し、最長15年にわたる中長期的な復興支援に取り組んでいます。

本基金は、「学校」を基点とし、東日本大震災により親を亡くされた小学生・中学生・高校生を対象とする奨学金プログラムを中心に、活動を行っています。累積奨学生数は1486名であり、本基金の最終規模は30億円前後となる見込みです。

MUFGは、自社のパーパス(存在意義)を「世界が進むチカラになる。」と定め、全てのステークホルダーが、次へ、前へ、と進むチカラになること、そのために全力を尽くすことを企業活動の指針としています。

あらゆるステークホルダーと感動や希望を共有し、よりよい社会の実現をリードしたいと考えています。次の社会を担う若い世代が、世界に羽ばたき、新たなステージに進むチカラになりたい——MUFGはこれからも学生の皆さまを応援していきます。

ユネスコ協会就学支援奨学金レポート2020 **完成**

東日本大震災子ども支援募金「ユネスコ協会就学支援奨学金」事業の、活動成果をまとめたレポートが完成しました。オンラインで取材した子どもたちや、被災地のようす、そして、震災から10年を経た報告として、かつての奨学生が震災の記憶を乗り越え、成長した姿も掲載しています。既に本事業へ募金いただいた皆さまと各種会員の方々へお送りしていますが、複数部ご希望の方は、教育支援課までご連絡ください。



世界遺産 THE WORLD HERITAGE

世界遺産

毎週日曜日午後6時よりTBS系列で放送中

4月～6月ラインナップ

- 4月 3日 ポン・デュ・ガール ローマの水道橋 (フランス)
- 4月10日 イグアス国立公園 (アルゼンチン/ブラジル)
- 4月17日 マデイラ島の照葉樹の森 (ポルトガル)
- 4月24日 古代都市テオティワカン (メキシコ)
- 5月 1日 放送休止
- 5月 8日 グレート・バリア・リーフ (オーストラリア)
- 5月15日 企画：世界遺産のミステリー10選 (各国)
- 5月22日 黄山 (中国)
- 5月29日 ハワイ火山国立公園 (アメリカ)
- 6月 5日 オアハカとモンテ・アルバン (メキシコ)
- 6月12日 エトナ山 (イタリア)
- 6月19日 企画：鉄道の世界遺産 (各国)
- 6月26日 アントニ・ガウディの作品群 (スペイン)

放送予定は変更される事もありますのでご了承ください。

<https://www.tbs.co.jp/heritage/>

今回、登場する2協会は、地域や予算規模、会員の年齢構成などは異なりますが、どちらも行政や学校と連携しながら、地域の中で国際理解や国際交流の重要な拠点として活動し、平和な社会の実現に貢献しています。

ここでは会長インタビューをご紹介します。紙幅の関係で内容を全て掲載することが難しいため、詳しい活動については両団体のホームページをご覧ください。(国内事業課)

地域の若者や外国の方々と手を取り合って

秋田ユネスコ協会（秋田県） 小林 建一 会長

<https://www.unesco.or.jp/akita/>

外国人による日本語スピーチ・コンテスト

1989年に第1回目を実施し、これまで32回行っています。グローバル化が進み、国境を越えて人が移動する時代。国籍や宗教、文化の違う人たちが地域社会で暮らすようになっており、秋田でも少しずつですが外国人が増えてきています。そのため、いろいろな違いを越えてコミュニケーション、相互理解を深め、地球の豊かな発展を目指したいと活動しています。コンテストには、これまで秋田に留学で来た人など408人（50ヵ国）が参加。スピーチの内容は留学での経験、地元の公園の素晴らしさ、日本で就職する夢、最近ではコロナ禍での生活など多岐にわたります。コンテストが中止になった2020年度には、秋田の外国人同士が話し合いをする機会をオンラインで設け、コロナ禍での生活や苦悩、今後の希望などが語られました。

コンテストの実施にあたっては、さまざまな団体から寄付をいただいているほか、バニヤンツリーというNPOと連携して事業を行っています。秋田ユ協の最も重要な事業で、今後も続けていきたいと思っています。



第31回のスピーチ・コンテストで「第二言語を身につける過程とそのメリット」について発表する参加者（ベナン出身）

国際理解やボランティアの拠点に

国際交流に熱心な高校生に、書きそんじハガキの回収や募金活動に協力してもらっています。地域のユネスコスクールには、ボランティアとしてスピーチ・コンテストに協力してもらっのほか、秋田ユ協のセミナーにもできるだけ参加してもらっています。活動に参加した学生や日ユ協連のカンボジア・スタディツアーに参加した学生が、秋田ユ協の会員になってくれることもあります。

設立74年を経た組織運営と若者への期待

秋田ユ協は1948年に設立しました。高齢化していますが、役員を中心に運営や活動を担っています。活動が長く続いていますので、役員は簡単にはやめることができないという気持ちになっていると思います。

ホームページ管理や会報誌（年2回発行）は元役員を中心に行っており、イベント案内や実施した行事をホームページに掲載しています。会報についても元役員を中心に、記事の構成や執筆者への原稿依頼をして作成しています。その年の活動記録を残すために会報は継続しています。



スピーチ・コンテストへの参加がきっかけで秋田ユ協の理事となったカビールさん（バングラデシュ出身）

これまでの活動を通じて、スピーチ・コンテストで協働しているNPOの理事の方や、過去のコンテストで最優秀賞をとった当時の留学生（写真上）が、秋田ユ協の理事として運営や活動に協力してくれています。

今後は、若い会員をどのように育てていこうか考えていきたいです。コンテストの手伝いだけでなく、若い人たちが自ら企画を考え、実施してくれることを願っています。

平和は本当に大事な価値観だから

港ユネスコ協会（東京都） 永野 博 会長
<https://minato-unesco.jp>

情報発信の大切さ

私たちの活動について広く知ってもらおうと、ホームページを活用した情報発信を行っています。ユネスコ精神を広く世の中に知ってもらいたいのに、以前のホームページは充分ではありませんでした。他団体でも熱心に活動しているところは WEB サイトが整備されています。情報発信はユネスコ活動に寄与する大切な仕事ですから、改修に取り掛かりました。



「国連海洋科学の10年」が始まったのを機に、東京の森・川・海とそのつながりを学ぶため隅田川と東京湾の運河を船で巡った（2022年1月）

組織運営はボトムアップで

会長になって初めて運営の難しさがわかりました。ボランティア団体は、上が決めたら下が動くという組織ではありません。また、会員がやりたくてもマンパワーに限りがありますから突飛なことはできません。やりたいと思ったら予算書をつくれます。講演会を何回、シンポジウムを何回、会報を何回と、年度当初に計画を立て、それに合う形でテーマを選びます。関心のある事業に会員が集まり、その中の誰かにリーダーを任せ、皆で実行する。ボトムアップの体制がしっかりしていることが前提です。会員がやる気にならないと長続きしません。

平和の理念をどう行動につなげていくか

個々のユネスコ協会は小さいですから、近くのユネスコ協会と問題意識を共有する機会があればいいですね。最近はZoomが活用できるようになってきました。年に1回でもよいから新しいやり方を知るという意味でも、一緒に何かできると面白いと思います。

それと、平和の理念です。戦後といまとでは国際情勢が大

きく変わっています。平和を考えることがますます大事になる一方、考えないことに慣れてしまっている気がします。平和がSDGsの話とどう結びつくのか、地域ユ協の活動が平和とどう関係するか、私たち皆が考えなければなりません。港ユ協には活動の軸が2つあります。ひとつは国際交流です。個人個人が友だちになれば戦争につながりにくい。これはわかりやすいですね。もうひとつが、UNESCOの活動を通じて平和を考えることです。UNESCOが行う活動は当然、UNESCOの理念に基づいているわけです。例えば、昨年（2021年）は「国連海洋科学の10年」が始まり、MAB計画の50周年でした。そういったテーマから、なぜUNESCOがこんな活動をやっているのかを皆で考えています。

しっかり理解できていないと自信を持って活動できません。平和は本当に大事な価値観なのだと、私も含めて、自信を持って行動したいと思っています。

◆新規加入維持会員のご紹介◆

株式会社バンザイ

代表取締役社長 柳田 昌宏

バンザイは100年の歴史が築いた「信頼」を礎に、これからも社会に愛され信頼される企業を目指します。貴連盟の活動に賛同し、事業をとおして地域・社会への貢献と責任を果たす活動に積極的に取り組んでまいります。



ミャンマー 軍事クーデターから1年

■ 最大都市ヤンゴンと活動地域の現状

2021年2月1日、ミャンマーで軍事クーデターが起こり、それに続く惨状は世界に衝撃を与えました。コロナ感染拡大の波にも見舞われ、二重の苦難の中で人びとの暮らしが1年以上続いています。

教育分野における影響は計り知れません。公立学校は再開しましたが、教育的な機能は果たせていません。現状に抗議する職員の大量離職・解雇で教員は大幅に不足し、児童生徒も治安上の不安などで多くが学校に戻っていない状況です。

世界寺子屋運動で行う中途退学児童生徒のための継続教育プロジェクトの授業は、ヤンゴン北部バゴー地域の4つのタウンシップ(地区)で、2021年3月に中断したまま現在に至ります。学習者やその家族からは授業の再開を求める声も寄せられましたが、夜間外出禁止

令や治安状況の悪化により困難となっています。仮に治安が安定しても、現状では日本ユネスコ協会連盟のような外国NGOが学校外教育を提供する場合の影響や、市民感情への配慮も欠かせません。

他方で、民主政権時代から教育省が実施してきた、中途退学児童生徒向けの小・中学校クラスは実施されているとの情報もあります。現地パートナー団体*が要請を受け、その教員研修を担当しました。予定では全国93地区で合計6116人の子どもたちが2021年12月ないし2022年1月から授業に参加するとの報告がありましたが、現状では公立学校の状況と変わらず出席者は限定的と見られます。

この厳しい制約の中で世界寺子屋運動として果たせる役割



は何か、現地パートナー団体と意見交換を重ねていきます。以下は、世界寺子屋運動の各支援地区からのレポートです。

■ 継続教育プロジェクト4地区からのレポート

シュエキン：送電所の爆破や道路封鎖があり、連絡に困難をきたしています。地区の教員12人は無事ですが、生徒の多くが仕事を求めて家を離れています。

ダイクウ：大規模な爆発などはなく、電話やネットもつながります。しかし監視や検問が厳しく、盗みなどの犯罪も増えて、住民の不安と緊張が続いています。皆が生活苦に陥り、教員もわずかな賃金で工場や農場の日雇い労働に出ています。

シュエタウン：地区の指導教員Aさんが、反政府活動をしないう旨の誓約書にサインさせられました。ヤンゴンのパートナー団体からAさんには継続的に連絡を取っています。

テゴン：地区の指導教員Bさんと連絡が取れていません。過去に地区長を務めた彼は、軍とPDF(市民防衛軍)双方から疑惑を向けられやすい立場にあり、身を隠していると思われる。

継続教育プロジェクト担当教員からのメッセージ

ミャンマーのことを気にかけてくれて感謝します。私たちの国はいま非常に難しい状態です。失業して仕事が見つからない人が多く、生活必需品がとて高くなっていて、手が出ません。

私の友人の中には、軍に殺された人やPDF(市民防衛軍)に参加した人が複数いて、とても辛く悲しいです。身近な人を同様な理由で失って、精神的に参っている人が多くいます。とにかく平和が欲しいです。

*安全を考慮し今号では団体名を伏せてお伝えします。

(海外事業課)

絆メッセージをお寄せください

ミャンマーへの絆メッセージをお待ちしています。最大都市ヤンゴンにはパートナー団体の職員5名が勤務し、各地区と連絡を取り合っています。いただいたメッセージは事務局で取りまとめ、翻訳し、パートナー団体へ送ります。



ヤンゴンの朝の風景

混乱の中でも花をつける
シャン州の木々



◎ご記入いただく項目・送り先

【送り先】kikaku@unesco.or.jp
(企画部広報課機関誌担当)

【必要事項】

- 件名:絆メッセージ
- 会員種別 ①ユネスコ協会・クラブ ②維持会員 ③賛助団体会員 ④個人会員 ⑤一般 (メルマガ登録者・学校・ご寄付者など)
- 所属名 (ユネスコ協会・クラブ名、企業名、団体名、学校名など)
- 氏名およびフリガナ
- メッセージ 200字以内

*団体・個人は問いません。

*現地からの個別のお返事は控えさせていただきます。

世界寺子屋運動

カンボジア トラム・ササー寺子屋が完成!

2022年3月、カンボジア・シェムリアップ州スレイスナム郡トラム・ササー コミュニティに、プロジェクト20軒目となる寺子屋が完成しました。建設地はどんなところか紹介します。

トラム・ササー寺子屋へは、アンコールワットなどの観光地や観光産業の集中する市街地から北西に100km、車では約2時間かかります。地域住民の96.5%が、主に家族単位で稲作、野菜栽培、養牛・養鶏などの農畜産業で生計を立てており、貧困率は推定36～40%と高いです。幅広い産品を手掛けていても生活が苦しい家庭が多いのは、作物の価格が安いことほかに、効率や収量の低さがあげられます。例えば米の収穫量は、約1.5トン/haで日本の平均の1/3以下に留まります。カンボジアの1人当たりの年間消費量は日本の約3倍なので、1年間の食糧と販売に回せる量を賄うのは難しく、米の在庫が尽きてしまう時期もあります。家畜の病気感染や、栄養不足で生育がうまくいかない場合も多いといいます。すでに多くの住民から、寺子屋ではよりよい農業技術を学びたいという声が寄せられています。

識字率の向上が続くカンボジアにあって、この地では15歳以上の13%が読み書きできず、学校に行っていない6～14歳の子どものは全体の10%以上を占めています。読み書き計算などの基礎的な学習能力は、新

完成したトラム・ササー寺子屋



新しい寺子屋の図書室で本を読む子どもたち

しい知識や技術を学ぶ土台であり、世代を問わず欠かすことができません。今後、成人向けの識字クラスや職業訓練を行うとともに、将来の非識字者を生まないため、学校に行っていない子どもたちの受け皿として小学校クラスなどに期待が寄せられています。

寺子屋運営委員の役割

寺子屋は、地域住民から選挙で選ばれたボランティアの運営委員により、日々の活動が支えられています。運営委員たちは、世界寺子屋運動について理解し、寺子屋の役割と委員業務を学び、住民に教育活動への参加を呼び掛けたり、要望をまとめたりします。農業や家事など各自の仕事を持ちながらも、地域の発展や人びとの変容をモチベーションに、寺子屋の活動に当たっています。



リエンダイ寺子屋委員長、チュウム・ソウンさん(写真)の1日

6:00	起床、身支度、洗い物など
7:00	豚小屋の掃除・餌やり(1日3回)、朝食づくり
8:00	朝食
～11:00	休憩、豚の餌やり、家族で営む商店の店番など
12:00	寺子屋へ行き開錠。他の委員や教員と掃除や活動準備
13:00～15:00	小学校クラス(郡教育局などの訪問対応、出席確認、教員・子どもたちへの声かけ、報告書作成など)
16:00	帰宅、豚小屋の掃除・餌やり、(家族用の)米の脱穀作業
18:00	夕食、休憩など。たまにテレビを観る
21:00頃	就寝(夜間識字クラスに行く日は22:00過ぎ)

(海外事業課)

ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト 活動発表会

日本ユネスコ協会連盟は、株式会社三菱 UFJ 銀行の協力のもと、持続可能な社会に向けた人材育成を目指し、これまで12年間のべ1054校のユネスコスクールに対して活動助成を実施してきました。今年度は、従来の助成金給付に加え、助成校同士の「交流・連携」に焦点を当てた助成校活動発表会を、2021年12月21日(火)にオンライン(Zoom)で初開催しました。



◀ Zoomによるオンラインでの発表の様子 (気仙沼市立月立小学校)

参加校は、2021年度に助成を受け、SDGs達成に向けた取り組みを実践中の小学校6校。宮城、新潟、京都、大阪、香川、福岡…と全国さまざまな地域に住む子どもたちが、オリジナリティあふれる活動を紹介しました。また、意見交換の時間には「伝統や地域とのつながりもSDGsには大切だとわかった」「私たちの学校でも、皆が笑顔になれるように自分たちで考えて行動していきたい」といった前向きな意見が共有されました。

当日のようすは、当連盟YouTubeチャンネルで、ダイジェスト版と発表部分フルバージョンを配信しています。未来へ向けて一生懸命学ぶ子どもたちの姿をぜひご覧ください。

協力：株式会社三菱 UFJ 銀行
(国内事業課)

助成校活動発表会の参加校

学校名	発表題名
宮城県気仙沼市立月立小学校	未来へつなぐ人材の育成 一自分らしく幸せに生きる人づくりー
新潟県十日町市立飛渡第一小学校	私たちの町や自然をもっと豊かにしよう
京都府京都市立安朱小学校	住みよいまち 安朱まもり隊プロジェクト
大阪府箕面こどもの森学園	気候危機：学校全体で取り組みすすめる草の根気候アクション
香川県三豊市立下高瀬小学校	もったいないとありがとうで推進するエネルギー・環境教育
福岡県大牟田市立大正小学校	SDGsへの挑戦『みんなの笑顔と未来プロジェクト』



▲ダイジェスト版映像



▲参加校の発表部分フルバージョン

ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクトおよび活動発表会の意義

日本ユネスコ協会連盟 ユネスコスクール・ESD担当理事 (前大牟田市教育委員会教育長) 安田 昌則

全国のユネスコスクールは、地域のよさや地域課題を踏まえ、持続可能な社会づくりに向けて教育活動を工夫しながら日々取り組みを進めています。

このアシストプロジェクトは、そのような学校に対して活動費用の助成を行うものです。「学校では限られた予算の中で活動を行っているので、本プロジェクトの助成により活動の幅を広げたり、深めたりすることができ活動の充実が図られた」との意見を全国の校長から聞きます。このように本プロジェクトは、ユネスコスクールの活動の質の向上に貢献していると考えています。また、本プロジェクト助成校の全国の代表校による活動発表会を開催し、次のような成果が見られました。

①普段は聞くことができない、全国各地の学校の多様な実践

を知る貴重な機会となった。

②他の学校の創意工夫された実践のよさを学び、自分たちの学びに生かすことができる。

③他校と自校を比較し、地域課題や実践の共通点や相違点などに気づき、それが地球規模での課題解決のための活動につながっていることを知ることで、「Think globally, Act locally」を自覚することができる。

このように意義ある本アシストプロジェクトおよび活動発表会が今後も継続することを願っています。



安田 昌則 理事

助成校の活動実践



私たちの町や自然をもっと豊かにしよう

新潟県十日町市立飛渡第一小学校

全校児童6人の飛渡第一小学校では、主にSDGs目標11（住み続けられるまちづくりを）、14・15（海・陸の豊かさを守ろう）の達成を目指し、10万円の助成金を活用して、豊かな自然を生かしたふるさと環境学習に取り組んでいます。学習内容は、学区にあるブナ林での体験活動、地元農家と連携した米・野菜づくり、そして、学校の前を流れる飛渡川とそこで生きる生物を守る活動と多岐に渡ります。

ブナ林では、専門家を招き、林道で植物・生きもの・野鳥観察を行うほか、基地づくりやそり遊び、木登りなど、子ども一人ひとりが興味のある活動を積極的に体験しています。農業に関する活動では、農家指導のもと、雪解け水の伏流水を使ったお米（飛渡米）や、サツマイモなどの野菜を栽培し、地元の市場や野菜直売所で販売しています。収益金の一部は老人ホームへのプレゼントに充てるなど、福祉教育の充実にも活用しています。また、飛渡川では、生きもの調べや水質調査などを通して、身近な川をきれいにしていく意識を高めるとともに、かつて飛渡川に遡上していたサケを増やすため、サケの卵の飼育にも挑戦しています。子どもたちは、毎年12月頃に漁業組合からサケの卵をもらい、温度管理や水質管理について学びながら育て、4年後の遡上を期待しつつ3月に飛渡川へ放流します。

どの活動も、子どもたちが「ふるさと飛渡」に愛着を持つ大切な活動であり、SDGs達成にも大きく貢献する取り組みとなっています。



▲農家の協力を得て飛渡米を育てる子どもたち



SDGsへの挑戦 『みんなの笑顔と未来プロジェクト』

福岡県大牟田市立大正小学校

全校がユネスコスクールに加盟している大牟田市にある大正小学校は、2年間の継続的なプログラムを対象とした30万円の助成金を活用し、住み続けたいまちを自分たちでつくる「まちと笑顔と未来のプロジェクト」と、グローバルな視野から国際社会に貢献する「世界の笑顔と未来プロジェクト」を全学年で包括的に実践しています。

地域に目を向けた前者の活動では、SDGs11（住み続けられるまちづくりを）を主な目標とし、育てた花を地域へと広げる取り組み（フラワータウンプロジェクト）や、防災マップやカルタの作成などの減災学習、世界遺産のある地元のよさを新聞などにまとめて発信する活動に取り組んでいます。グローバルな視野に立った後者の活動としては、ペットボトルキャップ回収や日ユ協連の「書きそんじハガキ・キャンペーン（世界寺子屋運動）」にも積極的に参加しています。

12月の活動発表会では、フラワータウンプロジェクトを通して、お世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを伝えたり、豪雨災害で被災した学校に花の贈りものをしたほか、他校と協働して学区の植樹活動にも取り組み、笑顔が増えて心が温かくなったと報告されました。また、SDGs13（気候変動に具体的な対策を）も目標に据え、自分たちで育てた花の苗を販売し、収益金をキリバスのマングローブ植林活動に寄付するなど、地域から世界へと広がりのあるアクションが続けられています。



▲花を育てて地域を彩るフラワータウンプロジェクト

アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

活動報告会・減災教育フォーラム報告

活動報告会

- ・日程：2月25日(金)
- ・参加者：今年度助成校27校27名 (Zoom)

開会式では、協力企業のアクサ生命保険(株)の幸本智彦副社長より、本事業を通じて東日本大震災の経験を風化させず、減災教育は着実に全国へ広がっていると挨拶を賜りました。

■地域と協働し、主体的・探求的な学びと当事者意識を育む多彩な実践

助成校が1年間の活動成果を発表。コロナ禍で制約がある中、各校はICTの活用など工夫しながら減災教育に取り組みました。

実践発表では、子どもたちの当事者意識を育むと同時に、

地域と協働して減災を発信する学校が多くありました。また、助成校同士が連携した活動例も見られました。講師の及川幸彦先生(日ユ協連理事/東京大学)は、減災教育で子どもたちが当事者意識をもって行動していくには主体的・探求的な学びが重要であり、個人の探求的な学びと地域との協働的な学びのバランスを考慮してほしいと総括しました。



自治体や地域ボランティアセンターと連携し、啓発イベントで市民に向けて研究成果を発表する高校生(東京都 京中学・高校の実践発表より)

減災教育フォーラム～減災教育を地域に広げ、未来につなげるために～

- ・日程：2月26日(土)
- ・参加者：今年度助成校27校27名、その他学校関係者、文部科学省、ユネスコ協会・クラブ、一般参加者など計140名 (Zoom)

開会式では、アクサ生命保険(株)の安淵聖司社長、文部科学省国際統括官付国際戦略企画官・日本ユネスコ国内委員会事務局次長の河村裕美氏より挨拶を賜りました。

日本やアジアで防災事業に取り組む認定NPO SEEDS Asiaの大津山光子事務局長は講義で、災害復興期における被災者の孤立問題や生活改善に、学校と地域が連携する調整役としてNPOの役割が大切だと述べました。

防災教育を推進する企業で活躍する菊池のどか氏(株)8 kurasu)、ESDに取り組む柴崎裕子先生(大田区立大森第六中学校)、大津山氏をパネリストに、上田和孝先生(新潟大学)をコメンテーターに迎えてパネルディスカッションを行いました。中学生時代に釜石市で東日本大震災を経験した菊池氏

は、当時の切迫した状況や思い、その後の生きることへの葛藤について語り、実体験から減災教育を未来につなげるための討議を行いました。

グループ討論では、都市型災害想定地域の板橋区立板橋第三中学校、東日本大震災被災地の気仙沼市立鹿折中学校、阪神・淡路大震災被災地の神戸大学附属中等教育学校、令和2年豪雨災害被災地の大牟田市立みなと小学校が、それぞれ特徴的な災害リスク・経験をもとに実践発表。今後も本事業では、子どもたちが災害を自分ごととしてとらえる視点を育み、学校と地域協働による減災教育を広く発信していく予定です。

本事業の詳細はコチラ
<https://www.unesco.or.jp/gensai/>
 (アクサ 減災で検索)



協力：アクサ生命保険株式会社
 プログラムコーディネーター/講師：

及川幸彦先生(日ユ協連理事/東京大学)

後援：文部科学省

(教育支援課)

鈴木 光

未来のあたりまえをつくる。

DNP

これがアンテナ…？ もっとつながる未来が 実現しそうですね！

このフィルム、肉眼では分かりませんが、超微細な5Gアンテナが印刷されているんですって。無色透明なフィルムだから、スマホやパソコン、家電やクルマなど、いろんなシーンや用途で活用できそう。この見えないアンテナがあたりまえになったら、私のメガネも5Gにつながるかも…？

大日本印刷株式会社

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

「寺子屋リーフレット・コンテスト」受賞作品決定！

2021年度「寺子屋リーフレット制作プロジェクト」コンテストの受賞作品が決定しました。本年度は、全国24校・約1800名の小・中・高校生が本プロジェクトに参加し、世界寺子屋運動について学ぶとともに、実際に書きそんじハガキ回収を呼びかけるリーフレットを作成して支援活動を行いました。

なお、最優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」に選ばれた作品(右)は、次年度「書きそんじハガキ・キャンペーン」のチラシに素案として採用される予定です。

(国内事業課)



最優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」受賞作品 北鎌倉女子学園高等学校 増田 碧さん

未来遺産運動

「プロジェクト未来遺産」有形分野のオンライン交流会開催

2021年12月22日(水)、「プロジェクト未来遺産」のうち、伝統的な町並や文化財群などの有形文化を対象に活動する15団体が参加し、オンライン交流会を開催しました。当日は、活動を推進する上での課題や工夫について、専門家を交えて参加者同士が意見交換を行いました。

全国各地で活動する団体が交流をはかり、資金調達方法や、地域内外の若者の巻き込み方、まちづくりのルールなどについて、知恵や工夫を共有する機会となりました。

(文化事業課)

Innovating Energy Technology

エネルギー技術を、究める。

電気、熱エネルギー技術の革新の追求により、
エネルギーを最も効率的に利用できる製品を創り出し、
安全・安心で持続可能な社会の実現に貢献します。

F 富士電機

富士電機株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2(ゲートシティ大崎イーストタワー) TEL.03-5435-7111

お知らせ

ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト助成校決定!

日本ユネスコ協会連盟は、株式会社三菱UFJ銀行の協力のもと、SDGs達成に向けた「持続可能な開発のための教育(ESD)」を実践するユネスコスクールを対象に、活動費用の助成を行っています。2021年12月1日～2022年1月14日までの間、2022年度の助成校を募集したところ、全国から89校の応募があり、審査の結果、78校(10万円枠75校/30万円枠3校)への助成が決定しました。助成校名や過去の実践例は、下記の特設HPをご覧ください。
<https://www.unesco.or.jp/sdgs-assist/>



災害子ども教育支援 募金受付

～いつか起こる災害から子どもたちの未来を守るために～

標記事業では、災害発生時に迅速な支援ができるよう、平時から募金をつのり、指定募金として積み立てます。皆さまのご理解と温かいご協力をお願いいたします。詳しくはP3をご覧ください。

■募金方法… 郵便振替:00190-4-84705

加入者名:公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
 ※通信欄に「災害子ども」とご記入ください。振込手数料免除

事務局人事(管理職) [3月1日付]

事務局長: 関口広隆

募集

第9回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム 2022年度 参加校募集(文部科学省後援)

「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」では、減災教育に取り組みたい全国の小中高校などを対象に2022年度の参加校を募集します(4月18日～5月31日)。本事業は①助成金(一律10万円) ②教員研修会(3日間、気仙沼市予定) ③活動報告会・減災教育フォーラム(2日間、東京予定)の3つの柱で構成されています。(※②③は旅費・宿泊費など全額補助) 本事業の詳細は下記の特設HPをご覧ください。
<https://www.unesco.or.jp/gensai/>



理事会・評議員会報告

■第546回理事会

1月15日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 「倫理規程」「行動規範」「懲罰規程」の制定
2. 事務局長人事

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

1. 部会等からの報告・提案事項等
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) 定款・諸規程改定検討部会
 - (4) 世界寺子屋運動部会
 - (5) 地域代表・青年代表理事会議
2. ポストコロナ時代の総会、理事会、評議員会の在り方(案)
3. 民間ユネスコ運動70周年ビジョン・ミッション 次期中期事業計画(案)
4. 2022年度事業計画書(案)・収支予算書(案)
5. ACCUとの合併契約書(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 担当理事からの報告
2. 第53回評議員会にて提出された意見(第53回評議員会議事要録)
3. 2021年度 事業進捗報告
4. 代表理事の職務執行状況報告(2021年11月13日～2022年1月14日)
5. 後援・共催事業
6. 日本ユネスコ国内委員会関係報告
7. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任

表委員)の当連盟評議員就任

8. 第54回評議員会の議題

■第547回理事会

3月12日(土)、オンラインにより開催した。

I. 決議事項

1. 会員の入会(維持会員1)
2. 「倫理規程」「懲罰規程」の一部改定(案)
3. ポストコロナ時代の理事会、評議員会等の見直し
4. 「ポストコロナ時代の理事会、評議員会等の見直し」に伴う定款・関連規程の改定(案)
5. 民間ユネスコ運動70周年ビジョン・ミッション 次期中期事業計画(案)
6. 2022年度事業計画書(案)・収支予算書(案)・資金調達及び設備投資の見込み(案)
7. ACCUとの合併契約書(案)

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

II. 協議事項

○部会等からの報告・提案事項等

- (1) 組織部会
- (2) 財務部会
- (3) 定款・諸規程改定検討部会
- (4) 世界寺子屋運動部会
- (5) 地域代表・青年代表理事会議

⇒ 審議の結果、いずれも原案どおり決議された。

III. 報告事項

1. 定款第64条委員会からの報告
2. 担当理事からの報告
3. 第54回評議員会にて提出された意見

4. 2021年度 事業進捗報告

5. 代表理事の職務執行状況報告(2022年1月15日～2022年3月11日)

6. 後援・共催事業

7. 第55回評議員会の中止と対応

8. 日本ユネスコ国内委員会関係報告

9. その他

■第54回評議員会

1月29日(土)、オンラインにより開催した。

○報告事項

1. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任
2. 民間ユネスコ運動70周年ビジョン・ミッション 次期中期事業計画(案)
3. 2022年度事業計画書(案)・収支予算書(案)
4. 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)との協力関係の構築に向けた統合の検討
5. 「倫理規程」「行動規範」「懲罰規程」の制定
6. ポストコロナ時代の総会、理事会、評議員会の在り方(案)
7. 部会等からの報告
 - (1) 組織部会
 - (2) 財務部会
 - (3) 定款・諸規程改定検討部会
 - (4) 世界寺子屋運動部会
 - (5) 地域代表・青年代表理事会議
8. 2021年度 事業進捗報告

日本ユネスコ国内委員会関連

日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)就任・

当連盟評議員就任

2021年12月1日より、以下の方々日本ユネスコ国内委員会委員に就任し、同日付で当連盟の評議員に就任しました。

関東・甲信越	松本 千恵子(群馬県ユネスコ連絡協議会事務局長)
	小池 治(特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会理事)
中部	高木 要志男(富山ユネスコ協会会長)
近畿	大濱 淳子(大阪府ユネスコ連絡協議会監事、 質面ユネスコ協会副会長)
中国	鈴木 昌徳(岡山県ユネスコ連絡協議会会長、 津山ユネスコ協会会長)
四国	吉田 達哉(新居浜ユネスコ協会会長)
九州	丸尾 直彦(大分県ユネスコ協会連盟会長)

日本ユネスコ国内委員会総会報告

3月11日(金)第150回日本ユネスコ国内委員会総会が行われました。総会の冒頭で濱口国内委員会会長からロシアによるウクライナ侵攻を非難する声明を発出したと報告があり、それを受けて、委員である日ユ協連の佐藤美樹会長は、日ユ協連も声明を出し、緊急募金を開始したことを報告しました。また、昨年パリで行われた第41回UNESCO総会および日本ユネスコ国内委員会各小委員会の報告がありました。さらに、UNESCO加盟70周年を機に青年により結成された次世代ユネスコ国内委員会から、「新しい日常におけるユネスコ活動の活性化に向けて」と題する提言(案)が発表され、意見交換会が行われました。

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章の精神に共鳴した人びとによって1947年、世界にさきがけ仙台で始まった、民間ユネスコ運動の日本における連合体です。現在全国に約280のユネスコ協会・クラブがあります。会長: 佐藤美樹 副会長: 青木保・大津和子 理事長: 鈴木佑司